

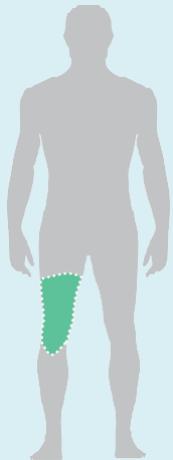
全層熱傷にRECELL[®]と自家網状植皮を併用し、1週間後に表皮再生を確認

CASE STUDY / Kevin Foster, MD, MBA, FACS / Arizona Burn Center, Phoenix, AZ

患者の状態

住宅のガス爆発による混合深度熱傷を受傷した21歳女性。受傷部位は、顔面、両上肢、臀部、両下肢。熱傷の受傷に関連し、この患者は、肺炎、高ナトリウム血症、菌血症を発症、受傷から2週間人工呼吸器の使用が必要であった。本症例では、右大腿部のⅢ度熱傷の治療について述べる事とする。

RECELL治療部位



治療日



術後1週



術後4週



術後22か月



治療法

一時的創閉鎖に使用されたアログラフトを切除し、採皮を実施(同じ個所から3度目の)、拡大率2:1のメッシュ化を行い、治療部位に固定(図A)。RECELLシステムでSpray-On Skin[™] Cellsを作成し、2:1網状分層植皮(STSG)の上から噴霧した。治療部位の被覆には、Telfa[™] Clear と Xeroform[™]、ドライガーゼやその他保護用ドレッシング材を使用。

臨床的アウトカム

術後1週目、右大腿部が95%を超える再上皮化(図B)。術後4週に創部が完治(図C)し、22カ月の間拘縮が起こる事無く、メッシュ痕も限定的であった(図D)。長期的な皮膚強度に関する問題は報告されていない。

結語

本症例では、Spray-On Skin[™] Cellsを使用したRECELLと2:1網状STSGの併用による全層熱傷治療で完全上皮化が術後4週目で得られ、術後22か月間を通じて網状痕も目立たなくなり、非常に優れた整容性が得られた。

本紙に掲載している症例は、臨床成績の一部を紹介したものです。全ての症例で同様の効果を保証するものではありません。

製造販売元

COSMOTEC
 コスモテック株式会社

RECELL専用サイト



製造元

avita^{medical}